



一粒の麦

ひとつぶのむぎ



パーティーバイキング&ダンス



聖書のことば

あなたの行くところどこにおいても、主を認めよ。
そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。

(箴言2章6節)

せーべー道路再び

施設長 廣瀬 恵

国鉄(現JR)を退職された小田清兵衛さんがエデンの園の周囲の地形を生かして2本の道を作ってくださったのは昭和60年前後と記憶する。もう30年以上前のことである。定年退職を機に、娘さんが利用しているエデンの園の近くに新たに居を構え、通ってこられては奉仕された。

一本目は敷地の西北の端から北側に、山の中腹を削って幅3メートル、長さ約100メートルのほぼ直線の坂道。二本目は南側から西側ののり面をゆるりと巻きながら畑に下りる幅2メートル、長さ約50メートルの道である。清兵衛さんは国鉄時代、保線工事にも携わっており、つるはしやスコップなどを器用に使ってこの2本の道をほとんど一人で通された。体力づくりや畑への通路として踏み固められ、いつからか私たちはそれに親しみをこめて「せーべー道路」と名づけ重宝した。

しかし、時は流れ次第にこの道を使わなくなった。朝の運動が体力や年齢、障害の状況に応じて園内で行われるようになり、借りていた畑も山羊舎を壊し数年前にお返ししたからだ。「せーべー道路」は敷地外にあったこともありすぐに藪でおおわれた。ただ、この道の付け根あたりに立つと、清兵衛さんのことや、坂道を降りていく仲間の姿が目に見えることがあった。

昨年度、「身近な所に散歩コースが欲しい。」というある支援員の言葉にほだされ、「せーべー道

路」の整備を思いついた。そんな時営林署のOBの川崎さんと出会い、確認のために10年以上人の通らなかった「せーべー道路」を二人で歩いてみた。竹やカヤが密集し、セイタカアワダチソウやイバラが覆いかぶさっていたが、地面は硬くなんとか下まで降りることができた。整備をお願いした川崎さんもまた丁寧な仕事をされ、「せーべー道路」は再び散歩道や改めて借り受けた畑への通路として利用できるようになった。この道を歩くと、麦藁帽子をかぶり、タオルを首に巻いた笑顔の清兵衛さんを思い出す。かなうことなら、お会いして「ありがとうございます。せーべー道路また使わせていただいていますよ。」と言いたいと思う。

私たちは昔も今も、多くの人たちの善意に囲まれている。毎週のように家族会有志は雑巾を縫い、ゴミ袋を作られる。窓拭きをしてくださる教会関係者、定期的にタオル等を送ってくださる団体もある。出前のコンサートや演劇で私たちを楽しませて下さる方々、舞踊、活け花、絵画等を指導くださる方々、献金や寄付もいろんなところからいただいている。また多くの方々が、エデンの園の利用者や運営のために祈ってくださっている。感謝の気持ちを忘れまい。そして、これらの善意に応えるために、私たちが利用者みなさんとして向き合い、一歩一歩共に歩きたいと思う。

